

# UR都市機構の安心住空間創出プロジェクトへの取り組み

URの賃貸住宅ストックは、全国で約77万戸ありますが、このうち昭和30年代から50年代前半の古い団地が約51万戸と多数を占めています。また、居住者の高齢化や低所得化が急速に進んでおり、住宅セーフティネットの役割が期待されています。

一方、将来の人口・世帯数が減少するとの推計があり、郊外の古い大規模団地のなかには、間取り、設備水準の老朽化・陳腐化し、バリアフリー化もされていないだけでなく、交通条件の悪いものも多くみられます。このため、URでは、平成19年12月に、UR賃貸住宅ストック再生・再編方針（建替え、改善、集約（規模縮小）など）を公表し、高齢者や子育て世帯への供給の重点化とともに団地の再編に取り組むことを打ち出したところです。（URL <http://www.ur-net.go.jp/stock/>）

現状の団地



子育て施設



高齢者施設

団地再生の実施  
(イメージ)



スロープの設置

